

(一) 國外に於ける一般的状态

世界の資本主義は最近一時的安定の観を呈してゐるが、その安定は決して學問的ものではない。而も此の安定の爲に、労働階級の組織化は益々甚しくなつてゐる。現にドイツ・フランスの如く、一日十時間乃至十二時間労働を強せり米・賃銀は以前に比べて、極度に引き下げられてゐる。

例へば、斯る組織化の甚著な被服製造業の労働者は甘受してゐるが、益々小に散る。同国の労働組合の多くは、幹部が政府資本家に買収されたり、又は極端に官僚化し、腐爛化して労働組合本来の職能を失はれ、組合内部の活動分子を其生産受と云々の並立権を用ひて、排斥分裂を以てなし、労働組合を強固に統一せられておらぬ。然るに、無産労働者の眞の陣牙を築起する事亦出来なかりである。

(二) 國內に於ける一般的状态

日本に於いても、亦昨年下半期頃より、資本主義は安定の観を呈してゐる。然しなかり、之れ又、労働階級の發達期に押取したれは、こゝからされたものには外ならない。斯るに於けるは、夫業者の大群は、職を得ること難はず、